

250th

Commemorative
Meeting of
the Kumamoto
Sterilization
Study and Research
Society

熊本県滅菌消毒法講座 第250回 記念大会

プログラム・抄録集

とき 平成25年11月16日(土) 10:00~16:30
(受付開始 9:15~)

ところ くまもと森都心プラザ プラザホール
〒860-0047 熊本市西区春日1丁目14番1号



主催 ● 熊本県滅菌業務研究会

250th

Commemorative Meeting of
the Kumamoto Sterilization
Study and Research Society

主催 ● 熊本県滅菌業務研究会

熊本県滅菌消毒法講座 第250回 記念大会

プログラム・抄録集

とき

平成25年 11月16日(土)

10:00～16:30 (受付開始 9:15～)

ところ

くまもと森都心プラザ
プラザホール

〒860-0047 熊本市西区春日1丁目14番1号

熊本県滅菌業務研究会事務局

熊本大学医学部附属病院 中央材料部内

担当：泉谷

TEL/FAX 096-373-7118

ごあいさつ

熊本県滅菌業務研究会 会長

藤井 裕

第250回熊本県滅菌消毒法講座記念大会を、平成25年11月16日(土)に「くまもと森都心プラザホール」にて開催いたします。本講座は中央材料部職員の教育と研鑽の場として昭和52年に発足し、毎年かさねて年8回の講座を開催して現在に至っております。おかげさまで毎回著名な先生方のご講演をいただき、多くの参加者と共に勉強できることは講師の先生はじめ、顧問の先生方や歴代の役員の方々のおかげと深く感謝する次第であります。

このたび、250回目の講座を迎えるに当たり、その節目として記念大会を企画してみました。普段の講座ではなかなかできない機器展示や会誌の発行などを行い、会員の皆様に満足いただける講座にしてみたいと考えております。

日本医療機器学会の滅菌技師(士)認定制度のおかげで、中央材料部の教育は飛躍的に向上し、現場の実務はエビデンスに基づいて実践される時代になってきました。その一方では新しい滅菌装置や洗浄装置が登場し、勉強の内容は留まるところを知りません。中央材料部にも常に最新の知識が要求される時代になったと認識しています。

洗浄と滅菌は医療関連感染対策としても大変重要なポジションです。手術ロボットが登場する時代となって、その重要性は増すばかりでしょう。今こそ私たちは持てる知識と技術を存分に発揮して、医療の安全と品質の向上に貢献しなければなりません。そのためには、地域の病院間で情報を共有できる研修会はぜひとも必要です。当研究会の目的はまさにそこにあると思います。

今回の記念大会は、身近な業務改善からグローバルな視点まで、盛りだくさんな内容にしてみました。ぜひ多くの方々にご参加いただき、明日からの業務に活かしていただければ幸甚です。

第250回熊本県滅菌消毒法講座『第250回記念大会』

プログラム

平成25年11月16日(土) (9:15～ 受付開始)

於：くまもと森都心プラザホール

10:00 開 演 会長あいさつ

10:05 教育講演

座長：熊本託麻台リハビリテーション病院 医療安全対策室 成瀬 信裕 先生

『洗浄・滅菌業務における最新の知見』

島崎 豊 先生 愛知県厚生連 海南病院 医療安全管理部

11:10 休 憩(10分)

11:20 研究発表

座長：熊本再春荘病院 麻酔科 第一種滅菌技師 柴田 義浩 先生

1 眼科手術器材の洗浄方法の検討

古賀 康治 日本ステリ株式会社、熊本大学医学部附属病院

2 滅菌器材における錆発生率低下を目的とした取り組みについて

清村 直樹 日本ステリ株式会社、熊本大学医学部附属病院

3 整形外科手術における業者貸出器械取り扱い基準の作成

池上 恭子、田上 幸枝 国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院

11:50 ミニレクチャー(30分)

座長：国保水俣総合医療センター 第一種滅菌技師 江口 里美 先生

『快適で衛生的な生活を送るために ～除菌・抗菌・カテキン?～』

尾家 重治 先生 山口大学医学部附属病院 薬剤部

12:20 昼食・休憩(80分) 展示会場見学

13:40 シンポジウム

座長：熊本総合医療リハビリテーション学院 第一種滅菌技師 藤井 裕

『滅菌技師(士)のこれから』

シンポジスト

松田 和久 先生 済生会福岡総合病院 中央手術部・麻酔科 顧問

坂本 眞美 先生 国際医療福祉大学・看護生涯教育センター 看護教育部長

男澤千佳子 先生 国立療養所菊池恵楓園 感染管理認定看護師

14:40 休 憩(30分) 展示見学

15:10 記念講演

座長：熊本大学医学部附属病院 麻酔科教授 山本 達郎 先生

『世界から見た日本の材料部』

高階 雅紀 先生 大阪大学医学部附属病院

16:20 終 了

18:00 懇 親 会 ホテルニューオータニ熊本

教育講演

『洗浄・滅菌業務における最新の知見』

島崎 豊 先生

愛知県厚生連 海南病院 医療安全管理部

座長：熊本託麻台リハビリテーション病院 医療安全対策室 成瀬 信裕 先生

『洗浄・滅菌業務における最新の知見』

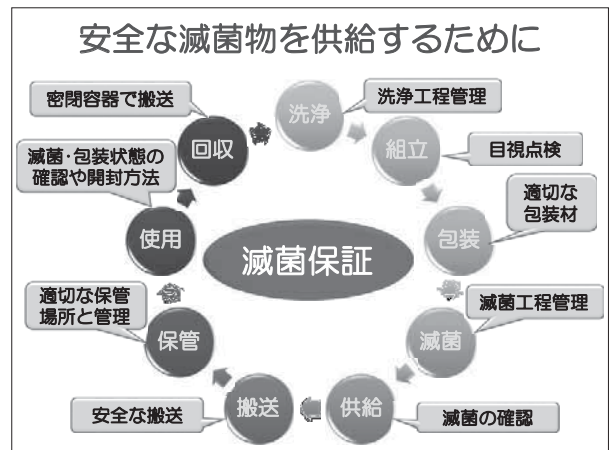
島崎 豊

愛知県厚生連 海南病院 医療安全管理部

スライド1



スライド4



スライド2

本日の内容

1. 洗浄滅菌業務の要求事項
2. 感染対策
3. 器材の処理と一次処理廃止
4. 洗浄の実際
5. 洗浄評価法の種類と特徴
6. 各種滅菌法
7. 日常の滅菌確認の方法

スライド5

2. 感染対策

標準予防策

すべての人の湿性生体物質（血液・体液・汗を除く分泌物・排泄物・創傷のある皮膚・粘膜）は、病原体を含んでいる可能性が高いため、常に感染の可能性がある

医療法施行規則の一部改正：医療施設における院内感染の防止について
CDC隔離予防策ガイドライン2007：米国疾病管理センター

<根拠：エビデンス>

- > 検査をしないと病原体が存在するかどうか不明
- > Window Periodの問題
HCV、HIVは感染してから検査で陽性になるまでに潜伏期間がある。（10日～60日）
- > 未知の病原体の存在
現在の医学で知られていない病原体は必ずあると言われている。その多くは、血液や体液に存在している。。

スライド3

1. 洗浄滅菌業務の要求事項

CDCガイドライン

- ・医療施設における消毒と滅菌のためのガイドライン 2008

日本のガイドライン

- ・洗浄評価判定ガイドライン2012（日本医療機器学会）
- ・医療現場における滅菌保証のガイドライン2010（日本医療機器学会）
- ・手術医療の実践ガイドライン2008（日本手術学会）
- ・消化器内視鏡の感染制御に関するマルチソサエティ実践ガイド2013（日本環境感染学会・日本消化器内視鏡学会・日本消化器内視鏡技術会）
- ・鋼製小物の洗浄ガイドライン2004（日本医療機器学会）

医療法など

- ・所轄保健所による病院立入検査
- ・医療施設における院内感染の防止について
- ・病院機能評価受審

認定制度

- ・滅菌技師/士、滅菌管理士

スライド6

一般病院のウイルス検査

病原性微生物	抗原 (ウイルス)	抗体
HBV B型肝炎ウイルス	○	○
HCV C型肝炎ウイルス	×	○
HIV ヒト免疫不全ウイルス	×	○

スライド7

洗浄業務時の个人防护具

キャップ

- 毛髪が隠れるようにする
- 耳も完全に覆う

**ゴーグル
フェイスシールド**

- 洗浄液などが目に入らないように防衛

手袋

- 丈夫で手にフィットする
- 長めのもの
- 細かい作業が可能なもの

シューズ

- 必要時、シューズカバー

マスク

- 鼻と口を完全にカバーし、液体の透過を防止する
- サージカルマスク

ガウン・エプロン

- ディスポーザブル
- 防水性のガウン（不織布）
- プラスチックエプロン

B型肝炎ワクチン接種

スライド8

3. 器材の処理と一次処理廃止

感染症

B型肝炎・C型肝炎・MRSA

患者に使用した器材

↓

消毒

↓

使用

- 滅菌

患者に使用した器材

↓

使用目的によって
処理方法が決定する

- 洗浄
- 洗浄＋消毒
- 洗浄＋滅菌

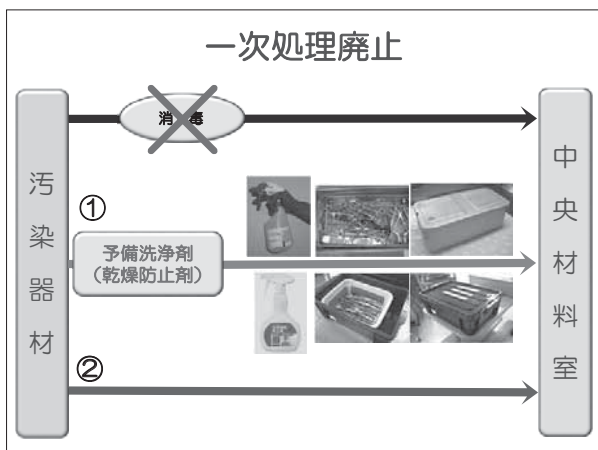
* スポルディングの分類

スライド9

分類	定義	処置	対象器材の例
クリティカル	通常無菌の組織や血管に挿入されるもの	滅菌 ・高圧蒸気滅菌 ・酸化エチレンガス滅菌 ・プラズマ滅菌 ・過酸化水素ガス滅菌	手術器材、インプラントなど
セミクリティカル	損傷のない粘膜および創のある皮膚に接触するもの	高水準消毒 ・グルタール ・フタール ・過酢酸 ・熱水消毒 中水準消毒 ・次亜塩素酸ナトリウム ・エタノール	人工呼吸器回路、麻酔器回路、軟性内視鏡、膀胱鏡など
ノンクリティカル	損傷のない皮膚と接触するもの	洗浄 低水準消毒(必要時) ・両性界面活性剤 ・塩化ベンザルコニウム	血圧計、酸素マスク、鑷盆、ガーグルバス、吸引瓶、薬杯、便器、尿器など

スポルディングの分類を一部変更

スライド10



スライド11

スプレー式の予備洗浄剤

未処理

6時間・24時間放置

予備洗浄剤をスプレー

【プログラム】

- すすぎ（冷水+温水）2分
- 洗剤による洗浄 7分
- すすぎ（温水）2分
- 熱水処理（消毒）10分
- 乾燥（試験では省く）

ウォッシャーディスインフェクター

スライド12

予備洗浄剤

6時間放置

24時間放置

6時間放置

24時間放置

予備洗浄剤

6時間放置

24時間放置

スライド13

日本と外国の違い

	日本	外国
中材の稼働時間	夜間・休日は休みが多い	24時間稼働が多い
水の硬度	軟水が多い	硬水
WDの積載量	多量（70～80%）	少量（50%以下）
ACの積載量	多量（70～80%）	少量（50%以下）

- 外国製の洗浄剤は日本の水に合わない
- 1回の運転時間も重要だが、積載量も考慮する
- ISO(国際規格)、EN(欧州規格)、JIS(日本の規格) それぞれの規格の違いであって、ISOやENはJISより優れているとは言えない。

スライド14

欧州の洗浄エリア

WDで洗浄する器材
器材の汚染が多い時は、シャワー洗浄後にWDへセットしている。

WD積載の例

研究発表

1 眼科手術器材の洗浄方法の検討

古賀 康治 日本ステリ株式会社、熊本大学医学部附属病院

2 滅菌器材における錆発生率低下を目的とした 取り組みについて

清村 直樹 日本ステリ株式会社、熊本大学医学部附属病院

3 整形外科手術における 業者貸出器械取り扱い基準の作成

池上 恭子、田上 幸枝 国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院

座長：熊本再春荘病院 麻酔科 第一種滅菌技師 柴田 義浩 先生

1

眼科手術器材の洗浄方法の検討

古賀 康治

日本ステリ株式会社、熊本大学医学部附属病院

眼科手術器材は、繊細で微小な構造の物が多く、洗浄が困難である。そのため、洗浄方法が限られ、洗浄不良を起こしている可能性がある。また、眼科手術器材のメーカーによって専用の洗浄器具が販売されているが、効率の面で考えると実用的でないなど、各施設によって洗浄方法を工夫せざるを得ない状況がある。今回は、洗浄工程の浸漬洗浄を見直し、洗浄効果・効率の向上について検討した。また、マイクロ器材の洗浄について、専用の洗浄器具使用による洗浄効果・効率の向上についても検討した。

ミニレクチャー

『快適で衛生的な生活を送るために ～除菌・抗菌・カテキン?～』

尾家 重治 先生

山口大学医学部附属病院 薬剤部

座長：国保水俣総合医療センター 第一種滅菌技師 江口 里美 先生

『快適で衛生的な生活を送るために ～除菌・抗菌・カテキン?～』

尾家 重治

山口大学医学部附属病院 薬剤部

1. 「除菌」は必ずしも消毒ではない

患児のお母さんが、清潔保持の目的で、“スポンジの除菌ができる”洗剤をスポンジにしみ込ませていた現場に遭遇しました。このスポンジを調べてみると、緑膿菌の“巣”になっていました(図1)。

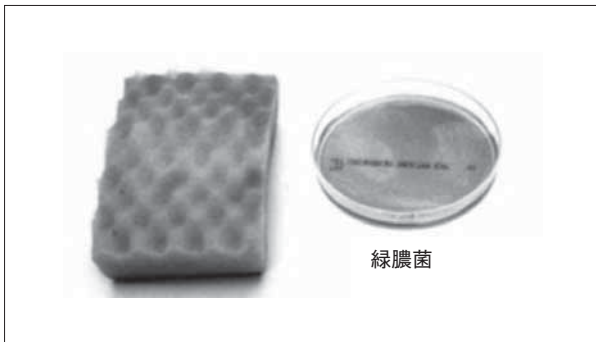


図1 “スポンジの除菌ができる”洗剤をしみ込ませたスポンジの汚染

2. 「99.9%除菌」も必ずしも消毒ではない

「99.9%除菌」と表示された入れ歯洗浄剤が、肺炎の原因になっていた事例を経験しました(図2)。

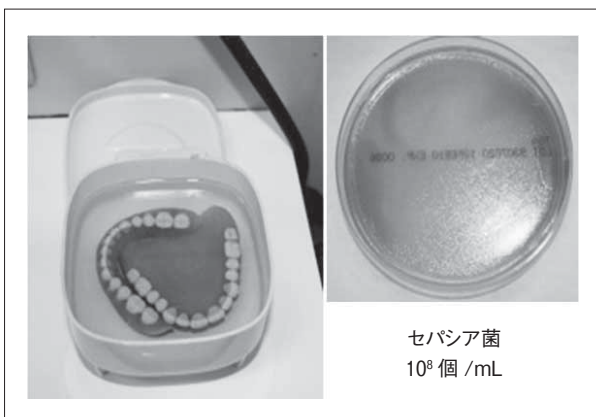


図2 入れ歯洗浄剤の汚染

3. 「除菌」や「消臭」が有害になることもある

「除菌」や「消臭」を歌い文句に、数多くの商品が市販されています。しかし、これらの商品のなかには有害なものがあります。たとえば、オゾンや二酸化塩素の室内くん蒸は、毒性の観点から望ましくありません(図3)。



図3 オゾンによる環境の消毒・消臭は望ましくない

4. 消毒薬の噴霧は望ましくない

消毒薬の噴霧を行うと、消毒薬を大量に吸入したり、眼に浴びたりするなどの毒性が問題になります(図4)。また、噴霧法は清拭法に比べて消毒効果が



図4 消毒薬の噴霧は望ましくない

不確実です。したがって、消毒薬の噴霧は控えてください。清拭で対応します。

5. お茶に抗菌作用はない

市販のお茶や、病院調製のお茶には抗菌効果はありません。それどころか、増殖促進効果があります(図5)。したがって、ノズル容器などへのお茶のつぎ足し使用は避けてください。

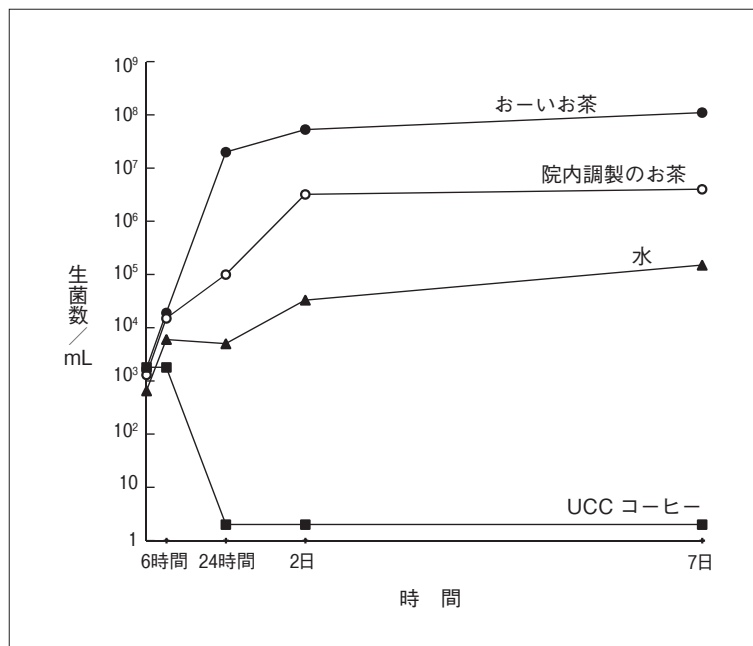


図5 各種溶液中での緑膿菌の動態(30°C)

シンポジウム

『滅菌技師（士）のこれから』

シンポジスト

松田 和久 先生 済生会福岡総合病院 中央手術部・麻酔科 顧問

坂本 眞美 先生 国際医療福祉大学・看護生涯教育センター 看護教育部長

男澤千佳子 先生 国立療養所菊池恵楓園 感染管理認定看護師

座長：熊本総合医療リハビリテーション学院 第一種滅菌技師 藤井 裕

滅菌技士(師)のこれから

松田 和久

済生会福岡総合病院 中央手術部・麻酔科 顧問

2000年に医科器械学会(現 医療機器学会)認定資格として小林寛伊先生が立ち上げられたこの滅菌技士(師)は、14年経過して認定者は4,500名を超えています。一般にはまだそんなに知られていないこの資格も病院の中では、かなり知られて来ました。昔の中央材料部(中材)で長年働いて来た人達は、勉強して専門的知識を持っているのに、資格が無いということで肩身が狭かったと思います。資格があるということで、病院の中で重要な役割を果たす滅菌部門の技術者が‘素人’ではなくなったと思います。やはり、滅菌部門で働く人は、一定のレベルを有する‘専門家’であるべきです。

以前は、「肉眼で汚れが見えないくらいに洗って、オートクレーブに入れれば滅菌完了です。インジケータはたまに使うくらいで良い!」と言っていた人がいました。

現在は、ご存知のように滅菌器も各種あり、滅菌のガイドライン、洗浄のガイドライン、職業感染対策、CJD(クロイツフェルトヤコブ病)対策など多くの知識も技術に加え専門家の眼を要求されます。素人では出来ないということです。先日のサプライカンファでのアンケート結果で「こんなに厳しい仕事とは思っていなかった!」と言って辞めて行く人がいると聞きました。

有資格者の看護師で材料部に異動した人は、かなり勉強しなくてはならないはずです。ICN(感染管理認定看護師)でさえ、「滅菌に関しては知識不足なので滅菌技士の勉強をして認定を受けました。」という方もおられます。

近年、MIS (minimally invasive surgery) 低侵襲手術(最小侵襲手術)の増加による複雑な機器・器材の滅菌が増加しています。これらは、洗浄が困難=滅菌困難な器材が多いのです。そのことが理解出来ない外科医師や看護部管理者の中には、「どうして出来ないの? チャチャッと出来るやろ!」と言ったりする人がいます。

「では、教えますからやってみてください。」と言うと、必ず「自分は洗うのは専門ではないから。もう良いからさっさと炊いて!」と返って来ます。また、以前よく聞いた「5分で滅菌して!」「そんな短時間では出来ません!」という会話は聞くことが無くなりました。

科学的な根拠で返事すれば、滅菌のことを知らない人達は言い返せないと思います。

医療機能評価では、滅菌部門の項目があり、滅菌保証、洗浄・滅菌業務の質改善、滅菌部門の職員の能力開発などが評価されました。本年少し変わりましたが、院内の人には、滅菌部門の重要性を知るきっかけになったと思います。最近では、滅菌の外部委託が増えましたが、病院側にも滅菌部門のことがわかる人がいないと滅菌部門を最も利用する手術部と円滑な業務関係が出来ないと思います。

以前は〈院内の非生産性部門〉と言われた滅菌部門ですが、近年、総合病院では、滅菌部門が円滑に稼働すれば外科手術症例数を増やせる=収益が上がるということがわかってきたようです。

ということで、滅菌技士(師)という資格は、医療の中で着実に認識が上がって来たと思っています。

坂本 眞美

国際医療福祉大学・看護生涯教育センター 看護教育部長

はじめに

我が国の滅菌業務は、材料部で働く「看護助手」達によって支えられてきました。医療機関における「滅菌サービス業」として、滅菌業務が医療機関から外に滅菌専用施設を作り、滅菌代行業務として看護師や看護助手の手を離れる形で専門業者として起業化が開始されました。日本滅菌業協議会によると、滅菌サービスを提供する専用施設が日本で初めて設置されたのは昭和60年とされています。

当時の医療機関における滅菌部門(中央材料部：中材)に対する病院管理者の重要性認識は高いとは言えず、設備や業務手順においても理想と現実の中で「滅菌の質保証」の弱体性に悩む中材管理者達が多くいました。院内感染防止に果たす中材の役割の大きさが徐々に認識されてくるとともに、永年滅菌業務を支えてきていた無資格者から、資格認定者による業務へと認識が高まってきました。今日の滅菌業務委託への切り替えは、資格認定者による作業と職員の学習継続がなされている安心もあります。

日本医科器械学会(現：日本医療機器学会)が2000年に滅菌技師認定制度を発足させ、滅菌技士認定委員会による資格認定が行われるようになりました。2003年には日本滅菌業協議会独自の資格認定制度もスタートし、資格有効期間を定め毎年フォローアップ研修受講を義務付けるなどで、スキルアップを図り滅菌の質保証に努められています。

滅菌技士のこれからを考える

このような流れを受けて、チーム医療を支える職

種としての、「滅菌技師(士)のこれから」に期待し、羽ばたいて頂けるように「夢」を語ってみたい。

まず短期目標として、医療機関における滅菌業務を病院職員業務から委託業務に切り替えられる事で、有資格者配置で安全な滅菌の保証を広げる事が出来ます。

滅菌技士に期待する仕事として、中材設備の保守管理、業務の始業前準備の遵守。作業者の専門性の保証。病院安全管理の一翼をになう役割を含め、設備更新時のアドバイザーなど、専門的立場から滅菌業務全般の動向を見据えた情報提供を行う等、医療経済、安全性を共に考えられる専門職者として委託者側にメリットを与えることが出来ます。

また、将来展望として、先進的な医療への貢献への期待もあります。手術手技の発展は、再生医療分野を含め、新分野が開けるでしょう。今日のロボット手術を例にとっても、手術医療の進歩に伴う医療機器の開発において、操作性重視でより複雑で、繊細なものが求められます。手術機器の安全性は、確実な洗浄と滅菌であることは原則です。ともすると外科医の意見重視の機器開発分野の研究者や製造者との協働をアピールする必要があるでしょう。

実際の医療現場にて日々の滅菌技士たちの工夫と研究の中に、安全な医療機器としての再生に必要な知恵があふれます。器械・器具製造においては是非に滅菌業務の専門職として、滅菌技士との協働をはかって頂きたいものです。

なによりも、滅菌技士自らが望む滅菌業務の確立のために、必要な条件に照らして考えれば、果たすべき役割の大きさを感じて頂ける事になるでしょう。

記念講演

『世界から見た日本の材料部』

高階 雅紀 先生

大阪大学医学部附属病院

座長：熊本大学医学部附属病院 麻酔科教授 山本 達郎 先生

『世界から見た日本の材料部』

高階 雅紀

大阪大学医学部附属病院

スライド1



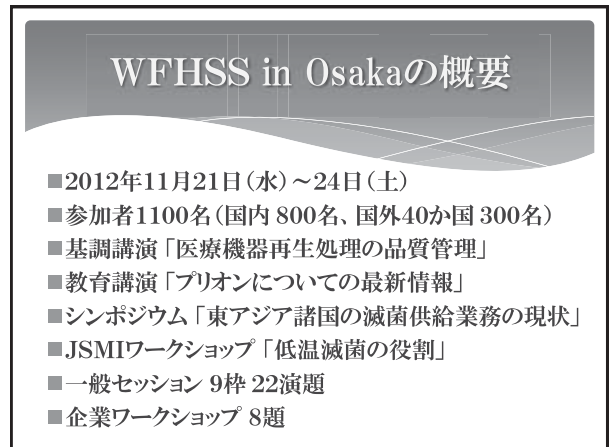
スライド4



スライド2



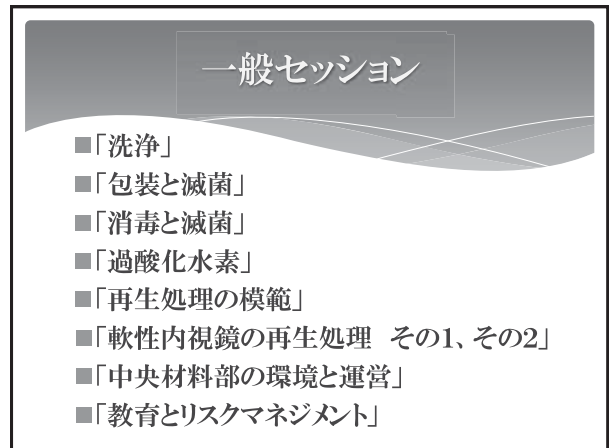
スライド5



スライド3



スライド6



スライド7

MODELIZATION OF CSSD's ORGANISATION : A REAL HELP TO MANAGE A PROJECT

Dr Christine DENIS,
CHRU (Universitary Hospital) Lille France
& Marc MAZZOLINI, OGIP ORGANISATION

**ANNUAL WFHSS & JMSI CONFERENCE 2012 OSAKA
13TH WORLD STERILIZATION CONGRESS**

スライド8



CHRU Lille:

- 1 sqkm
- about 3000 beds
- 90 operating rooms
- 13000 employees



スライド9


PROJECT:

- × To build a new CSSD (super center) for 5 hospitals
- × As a replacement for 7 CSSD
- × It means:
 - + New organizations
 - + Logistics
 - + Automatization of the process
 - +

スライド10

CSSD STERINORD's STUDY

CLEANING AREA



Washers disinfectors (WD)
Source = simulation of trays arriving by shuttles

Reception workstations Sorting workstations Preparation of hollow instruments WD loading

Buffer = simulation of all the shuttles waiting for process

WD: 10 WD are planned, the model is running with 9 (to simulate 1 out of order)

スライド11

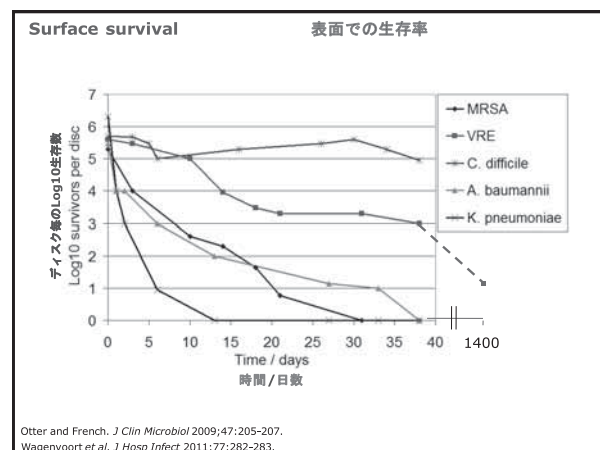
Is there a role for hydrogen peroxide vapour disinfection in the prevention of healthcare-associated infection?

過酸化水素蒸気消毒は、医療関連感染の予防に役立つか？

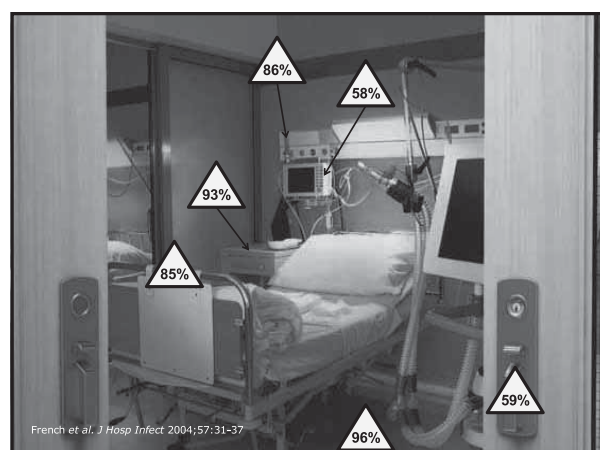
2012年11月24日
Jon Otter, PhD
ジョン・オッター博士
Scientific Director, Healthcare, Bioquell
バイオケル社医療部門科学部長
Research Fellow, King's College London
キングス・カレッジ・ロンドン大学主任研究員
Visiting Professor, Tokyo Healthcare University
東京医療保健大学客員教授
jonathan.otter@kcl.ac.uk



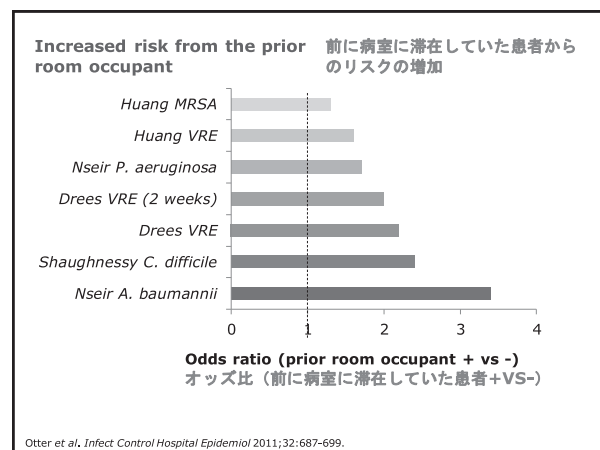
スライド12



スライド13



スライド14



研究会の歩み

熊本県滅菌業務研究会の歩み

開催日	講演内容	講師
第1回研究会 S52.07.02	研究会発足のための懇親会 滅菌業務従事者の情報交換の場、滅菌業務に関する研究会として発足	発起人 国立熊本病院中材婦長 吉井道子 司会進行 松岡ケイ子
第2回研究会 S52.	研究会運営方針、情報交換「今後の研究会をどう発展させるか」	
第3回研究会 S52.11.26	講演「ガス滅菌について」	サクラ精機 KK 平井
第4回研究会 S53.04.15	講演「滅菌バッグについて」	ホギ KK 企画開発部 中村修二
第5回研究会 S53.09.30	講演「院内感染防止について」 会則の作成	ナニワ医科工業 KK 設計技術部長 白井惣之助
第6回研究会 S53.12.02	講演「ステリハイドについて」	石丸製薬 KK
第7回研究会 S54.02.18	講演「米国における滅菌管理の現状について」	アメリカミズリー大学微生物学教授 フランク・エングレー
第8回研究会 S54.05.19	講演「一般的消毒について」	熊本大学医学部附属病院薬剤部副部長 岩奥玲子
第9回研究会 S54.09.22	講演「ディスポ製品について」	テルモ・ジャパン KK 社員
第10回研究会 S54.12.01	ゼミナール「高圧蒸気滅菌について」 「EOG 滅菌について」 「超音波洗浄について」	
第11回研究会 S55.02.16	講演「院内感染とその防止対策」	国立大阪大学医学部附属病院検査部部長 神木照雄
第12回研究会 S55.07.12	講演「苦悩する中材業務」	健康保険八代総合病院麻酔科部長 青木範充
第13回研究会 S55.11.29	グループ討議 A. EOG 滅菌について B. 洗浄法について C. 院内感染について	討議助言者 健康保険八代総合病院院長 伊佐久二 // 麻酔科部長 青木範充
第14回研究会 S56.04.25	講演「院内感染防止および消毒法について」	国立療養所熊本再春荘病院薬剤部部長 多賀泰雄
第15回研究会 S56.09.12	講演「EOG 滅菌について」	健康保険八代総合病院麻酔科部長 青木範充
第16回研究会 S57.01.23	講演「米国における中材業務の現状」	健康保険八代総合病院麻酔科部長 青木範充
第17回研究会 S57.05.29 S57.05.30	講演「高圧蒸気滅菌装置の取り扱いについて」 実技研修：高圧蒸気滅菌装置の取り扱い	千代田制作所 中条敏行 千代田制作所 中条敏行
第18回研究会 S57.11.20	講演「超音波洗浄装置について－その使用上の問題点－」	シャープ KK 技術部
第19回研究会 S58.02.26	一般演題「中材業務の現状と問題点」 「アンケート調査結果報告」 講演「手術室の清潔管理について」 *会員の研究発表開始	熊本赤十字病院中央材料室 岩下三生 熊本大学医学部附属病院中央材料部 沼田和子 国立熊本病院麻酔科部長 宮崎久義
第20回研究会 S58.06.20	講演「感染症の変貌」 20回記念特別講演「院内感染とその防止対策」	長崎大学学長 福見秀雄 岩手大学医学部滅菌学教授 川名林治
第21回研究会 S58.07.09	講演「滅菌と消毒－その考え方－」 「滅菌と消毒－その実際－」	熊本大学医学部附属病院薬剤部無菌製剤室長 渋田達幸 熊本大学医学部附属病院薬剤部製剤室長 飛野幸子
第22回研究会 S58.09.03	施設見学：健康保険八代総合病院手術室・滅菌材料室	健康保険八代総合病院麻酔科部長 青木範充
第23回研究会 S59.03.10	一般演題「医療用消耗物品の中央移管について」 「中材業務アンケート集計結果報告」	健康保険八代総合病院中央材料室 山口記代 熊本大学医学部附属病院中央材料部 堀美恵子
第24回研究会 S59.06.16	グループ討議 A. オートクレーブについて B. ガス滅菌について C. 洗浄法について	

開催日	講演内容	講師
第25回研究会 S59.11.10	講演「ディスポ製品の安全管理について」 A. ガンマー線滅菌について B. 滅菌工程における安全(品質)管理について C. 販売ルート(メーカー出庫から病院納入まで)における安全管理 D. ディスポーザブル製品の保管管理(使用現場における安全管理) E. 気管内チューブ、カニューレの再生について	テルモジャパン KK 相馬 清 ニプロ KK 増田正夫 日本メディカルサプライ 小早川清和 トップ KK 山際裕一 日本メディコ KK 木下久雄
第26回研究会 S60.04.13	一般演題 「業務の省力化に関する一検討 －気管吸引器材消毒液の細菌培養を試みて－」 講演「医療用消耗物品の中材管理」 *年会費2000円を年度のはじめに一括徴収、会員証発行を開始	熊本地域医療センター中央材料部 土持 董 健康保険八代総合病院麻酔科部長 青木範充
第27回研究会 S60.07.13	講演「危険病原体の管理に関する世界の現状」 *滅菌消毒法講習会に関するアンケート調査	国立熊本病院院長 横田 功
第28回研究会 S60.11.13	一般演題 「コンピュータによるディスポ製品の管理について」 「中央滅菌材料室の案内作成について」 「卓上小型自動滅菌器の滅菌効果の判定」 講演「これからの中央材料部を考える」	熊本大学医学部附属病院中央材料部 羽山弓子 国立熊本病院中央滅菌材料部 村上智賀子 健康保険八代総合病院手術部 松永みさ子 玉名地域医療保険センター総婦長 永山キヨ
第29回研究会 S61.03.08	一般演題「ゴム手袋の手術時破損状況調査」 「手術部における滅菌物の管理」 講演「手術室内浮遊塵埃数の長時間連続測定」 「手術室内浮遊塵埃の動向」 「手術室内の微生物汚染度調査」	熊本市民病院中央手術室 伊藤直美 健康保険八代総合病院手術部 小林千代子 熊本大学医学部附属病院中央手術部 櫛山三蔵 熊本大学医学部附属病院中央手術部 櫛山三蔵 熊本赤十字病院麻酔科部長 浅井 淳
第1回講習会 S61.05.10	講演「滅菌の原理」 「滅菌法－高圧蒸気、エチレンオキシド、その他－」 *国立熊本病院地域医療研修センター開設に伴い、中央材料部業務に関するセミナー「滅菌消毒法講習会」を開催(年間5回を1クールとする)	国立熊本病院麻酔科部長 宮崎久義 熊本市民病院麻酔科部長 尾方信也
第30回研究会 S61.06.08	講演「中材業務の現状と将来」 「水痘生ワクチンの開発と研究」	浜松医科大学麻酔科教授 池田和之 大阪大学微生物研究所教授 高橋理明
第2回講習会 S61.07.21	講演「滅菌装置」 「滅菌効果の確認」	熊本赤十字病院麻酔科部長 浅井 淳 熊本赤十字病院麻酔科部長 浅井 淳
第3回講習会 S61.09.13	講演「回収と再生」 「ディスポーザブル医用器材の管理」	熊本大学医学部附属病院中央材料部部長 堀恵美子 国立熊本病院中央材料室部長 村上智賀子 健康保険八代総合病院麻酔科部長 青木範充
第4回講習会 S61.10.11	講演「消毒法」 「建設設備と人的構成」	熊本大学医学部附属病院薬剤部副部長 岩奥玲子 健康保険八代総合病院麻酔科部長 青木範充
第31回研究会 S61.11.28	一般演題「気管内チューブの再生回数と廃棄の原因」 「チューブ類の再生処理の工夫」 現状報告「物品及び衛生材料の使用状況」 講演「職場を楽しくするために」	健康保険八代総合病院手術部 宮本尚枝 健康保険八代総合病院器材部 掘田都美子 玉名地域医療保険センター 勘米良和代 山鹿市立病院院長 飛松辰典
第5回講習会 S62.02	講演「中材のあり方と業務の範囲」	健康保険八代総合病院麻酔科部長 青木範充
第32回研究会 S62.03.07	一般演題「手術室清潔保持のための改善と現状報告」 「超音波洗浄の洗浄効果テストを試みて」 「EOG 滅菌作業の安全性について －滅菌物取り出し時期の再検討－」 講演「中材業務と教育」	公立玉名中央病院中央材料室 村上孝子 山鹿市立病院中央材料室、手術室 金山幸子 熊本大学医学部附属病院中央材料部 中村範幸 熊本大学医療技術短期大学看護学科教授 園田志津子
第6回講習会 S62.05.16	講演「蒸気滅菌とガス滅菌の実際と注意点」	看護部長 京谷光子

熊本県滅菌消毒法講座第250回記念大会
プログラム・抄録集

発行日：平成25年11月16日

発行：熊本県滅菌業務研究会
発行責任者 藤井 裕

出版： **ホープ印刷株式会社**

〒861-8007 熊本市北区龍田弓削1丁目4番12号
TEL：096-338-0500 FAX：096-386-3001